

事例 2 Writing (第3学年)

コミュニケーション・ライティングの実践

「学校祭の出し物を他クラスの生徒に紹介しよう。」

“Write about your school festival and whatever is concerned with it.”

1 表現活動(ライティング)指導目標

学校祭でのクラスの出し物を紹介する文を書き、身近な事柄について書くことを通じて表現力を育成する。また、他の生徒の紹介文を読み、英語表現に関する関心・意欲を高める。

2 評価規準

- ・ 自分の伝えたいことをできる限り多く英文で書こうとしている。(関心・意欲・態度)
- ・ 自分の伝えたいことや考えを、間違いを恐れずに英語で書こうとしている。(関心・意欲・態度)
- ・ 他の生徒が書いた紹介文を正しく読み取ることができる。(理解の能力)

3 指導過程

まず、6月中旬に、2クラス間で互いにそれぞれのクラスの学校祭の出し物について紹介する英文を書かせた。これは、トピックを与えどの程度の長さの英文を表現できるか調べるために行った。

自分の考えを日本語で簡単にまとめさせて、次に英語で書かせた。その際、英語でうまく書けない生徒には教師側から支援をし、辞書を利用させた。「全員が50語以上で書けること」を目標にした。

生徒の書いた文章を全てタイプし、もう一方のクラスに配布した。他クラスの出し物に関する紹介文を読み、感想を書いて元のクラスに戻し掲示・発表した。

4. 評価方法

この活動では、観察により「関心・意欲・態度」を重点的に評価した。そのため添削は敢えて行わなかった。仮に、生徒の紹介文を「表現の能力」で評価すれば以下のとおりである。

【3 - X 生徒の紹介文例】

「十分満足できる」例

- ・ Hakufusai is school festival of our high school. Our class made “Sugoroku.” It was made four sections. For example, I made “Ennichi section” with my friends. A lot of people came to our class. I think that they enjoyed it.
- ・ We open a coffee shop called “WARYOAN.” It means Japanese atmosphere and cool heritage. If you come to the shop, you can eat kakigori. We serve various syrups, for example, strawberry, melon, powdered green tea and so on.

「おおむね満足できる」例

- ・ Our class open a Japanese style café in Hakufu festival. Specialty of café is many kinds of shaved ices with syrup on the top. We lay a lot of tatami in the room. We use goodwill on entrance. I play a waiter in there.

「努力を要する」例

- ・ We manage a tearoom. The main thing is at great no expense.

【3 - Y 生徒の紹介文例】

「十分満足できる」例

- Long-awaited “Hakufu festival” open. In my class, we run the coffee shop and kakigori. Our kakigori is a shaved ice with syrup on the top and with some topping. It will surely be delicious. In many brass band, we give concerts on the open air and in the hall. You will meet some performance that you can't meet in other concert. Lastly I think that I, other students, teachers, visitors will unify.

「おおむね満足できる」例

- Our class made a sugoroku which called Sugorokumi. We decided to make four group to make four stage. The first stage was bridge stage, the second was western, the third was Japanese, the last was festival. I made third stage. We decided to use the bamboo, but it was difficult for us to stand the bamboo.

「努力を要する」例

- We tired for school festival but I was filled in good because my class person made guest joy by sugoroku. Sugoroku is board game. Our game is big game. I think everybody filled good days.



英語への吹き替えをしよう

1 指導目標

映画「千と千尋の神隠し」のセリフを英語に吹き替えることで、英語に対する興味・関心を高める。グループごとに発表用のワークシートを作成させ、映画の鑑賞を通じて表現力を養う。

2 評価規準

- 吹き替えの言語活動を、間違いを恐れず積極的に行っている。(関心・意欲・態度)
- 主人公になったつもりでセリフを英語に直すことができる。(表現の能力)
- 映画のあらましと、冒頭部分の主人公と両親の会話を英語で理解することができる。(理解の能力)

3 指導過程

- (1) 映画の要約を英語で簡単に説明する。
- (2) 吹き替えに挑戦する冒頭部分を日本語音声で鑑賞し、場面の状況を理解させる。
- (3) 4～5人のグループに分け、話し合いをさせながら英語への吹き替えを作成させる。

- (4) グループから3名ずつ代表者を選び、発表させる。
- (5) 補助プリントを用いて、DVDに収められている英語字幕を使ってクラス全体で確認をする。

<この活動の準備について>

* DVDのキャプションについては、最近のPCに同梱されているDVDプレーヤーでは、画面キャプチャーができない仕様のものが多いので、FRAPSというソフトを使った。
レジストしなくても画面のキャプチャーだけなら簡単にできる。また、英語字幕をONにしてキャプチャーすれば、簡単に模範解答プリントをつくることができる。ただし、著作権の問題があるので扱いは慎重にすべきである。

4 評価方法

発表を元にグループ単位で相互評価する。(グループ1～5がグループ6～10の評価を、グループ6～10がグループ1～5の評価をする。)

評価のポイント(グループごとに配布)

a. 皆によく聞こえるように発表している。	[4 3 2 1]
b. 正しい英語で表現している。	[4 3 2 1]
c. 登場人物の雰囲気をよく表している。	[4 3 2 1]

英訳のワークシート(グループごとに配布)

映画の吹き替えに挑戦しよう

- ・グループ内で分担して英語にしてみよう。
- ・できあがったら、父、母、千尋の役の3人の代表を決めよう。
- ・代表には、みんなの前で演じてもらいます。

それではがんばっていきましょう!(1班~5班)

リーディングの活動と結びつけたライティング活動

1 指導目標

リーディングの授業で読んだ文章の内容に対して自分の意見を書くことで、表現力を養う。また、グループ内で互いの意見を交わすことによって相互理解を図る。

2 評価規準

- ・ 間違いを恐れず、自分の意見を積極的に書こうとしている。(関心・意欲・態度)

- ・ 自分の考えや意見を分かりやすく書くことができる。(表現の能力)
- ・ 与えられた英文を読み、全体の主題を理解することができる。(理解の能力)

3 指導過程

- (1) リーディングの授業で扱った文章を使って、関係する質問に答える形で自分の意見を書く。
- (2) 4～5人のグループに分け、お互いの意見を発表する。
- (3) グループ内で一番よいという評価を受けた生徒の意見を選び、他の生徒に発表する。

自由英作文トレーニングワークシートは資料を参照。

考察

1 主題設定の理由

4月の下旬にライティングの授業に関するアンケートを行ったところ、次のような意見がみられた。
(対象生徒3年組42名)

授業アンケート

自分自身に関すること	(得意)	(ふつう)	(苦手)
a. 英語は・・・	9	17	26
b. 英文を読むことは・・・	5	20	17
c. 英語で書くことは・・・	1	6	35
d. 英語をはなすことは・・・	0	4	38
e. 英語を聞き取ることは・・・	13	19	10

2. 授業に対して意見・要望があれば記入してください。

- ・ ライティングの授業は、文法などの演習が多くてあまり楽しくない。
- ・ 自分で考えて英語で「書く」機会がこれまでほとんどなかった。
- ・ 受験に役立つような内容をどんどん入れてほしい。
- ・ 1,2年の頃、ほとんど授業をまじめに受けていなかったため、基礎からやり直したい。
- ・ 文法がかなり不安なので丁寧にやってほしい。
- ・ 総合英語を使う授業は結構よく分かるのでこんな感じで。
- ・ 文法の知識をつけて、速く英文が読めるようになりたい。
- ・ 受験にむけた授業。
- ・ 単語力がつくような授業。
- ・ 文法を学んだ後、すぐにそれを使った作文練習があるのがとてもいい。
- ・ 総合英語を3年になって初めて使ったけれど、教科書の分からないところが総合英語にあるのもっと使ってほしい。

少数であったが、生徒の意見の中に、英語で自分のことについて表現したいという意見がみられた。また、それと同時に、ほとんどの生徒が、自分の考えを英語で書くことに自信をもっていないことが分かった。そこで、まずこの時期の生徒にどのような活動を通してどのような力をつけることを目標にすればよいか考察することにした。

2 コミュニケーションとしてのライティングの指導について

書くという作業の多くは、人に何かを伝えるために行われる。しかしながら、現在もなお、多くの教師が和英訳型の作文指導がライティングの授業の中心になっていることは否定できない。人に何かを伝える = コミュニケーションとしてのライティング能力を養成するためには、どのような目標を立て、どのような指導を展開すればよいのか。吉田研作は、コミュニケーションとしてのライティングを大まかに次のように分けている。

- | |
|---|
| level 1: 他人を視野においたライティングの最も簡単なものは、ちょっとした「伝言」を書く時のメモやメッセージ |
| level 2: 家族や友人など、親しい人を書く手紙つまり書き方や形式にあまりこだわることのないライティング（インフォーマル） |
| level 3: 仕事関係のように、より明確に自分が言いたいことや求めたいことを文章化し、それを相手にできるだけ正確に伝えるための書き方や形式も考慮に入れた手紙（フォーマル） |
| level 4: エッセイや小説、詩などのレトリックや想像性（創造性）が必要となるライティング |

そのなかで、「文法の必要度は、ライティングの性質により、どれだけコミュニケーションに必要なか、という基準によって決まってくるのであり、基本的には、目的とするコミュニケーションに必要なだけの文法が使えればそれでよい、ということになる」（吉田 1998）と、文法とライティングの関係を明確に表現している。英語のテスト勉強のために「書く」場合は、まさに文法、表現、語彙などを覚えることが目的なので、書くことによって文法などの言語形式の修得に焦点が置かれる。しかし、それ以外のコミュニケーションを目的としたライティングでは、必ずしも文法などの言語形式はそれほど重視されない場合もあると吉田は述べている。今回は上記の level 2 程度の文法の正確さを意識して目標を立てた。

また、実践例について、伊東（1999）は、ライティングの指導形態を以下のようにまとめている。

書写	暗写	文型演習	和文英訳	口頭英作文	自己表現	文結合演習
パラグラフ・ライティング			日記文・手紙文		エッセイ・ライティング	

コミュニケーションとしてのライティングの観点から、～の活動に注目して指導した。また、コミュニケーションとしてのライティングを指導していく上で、コミュニケーション能力の伸長を図る活動を計画しなければならないわけだが、Arena (1998)は、ライティングにおける communicative competence について以下のように意見を述べている。

Sociolinguistic Competence: “Good writers know how to vary their vocabulary according to such factors as the audience, purpose, the topic, or the point of view.”

Strategic Competence: “In writing to learn, strategic competence is employed when communication breaks down in the writer herself or himself.”

Discourse Competence: “In writing to learn, this type of competence enables the effective writers to organize their writing cohesively and coherently.”

大学受験を目指す 3 年生が、コミュニケーションをとるのに必要な文法を用いて書く学習活動の妥当な目標として、以下のような目標を設定した。

目標：「2 学期末までに全ての対象生徒が与えられた題に対して、少なくとも 80 語以上の英語で自分の考えを表すことができる。」

3 各事例についての考察

コミュニケーション・ライティングの実践

6月中旬、学校祭の準備時期に、生徒の（和文英訳ではない）作文能力を調べることを主な目的として行った。学校祭のクラスの出し物を、2クラスの間で紹介し合うという活動である。到達目標として、どの程度の語数を設定できるか、この活動を通して調べた。

生徒が作文に要した語数は次のとおりである。

10-20 words	0名	
21-30	2名	
31-40	5名	
41-50	10名	
51-	23名	(全40名)

4月のアンケートの結果では、英語を書くのが苦手であると答えた生徒は、35名であったが、上記の統計数からも見て分かるように半数以上の生徒が、文法の間違いこそあれ、50語以上の文を書くことができた。4月の時点で英語を書くという活動について苦手意識をもつ生徒が多くいた割には、多くの生徒がよく書いている。学校祭への盛り上がりのなかで、「伝えたい」という気持ちが後押ししたと考えられる。この活動に対してのアンケートでも、「みんながたくさん書いているからがんばった。」「結構書けた。」「楽しかった。」といった声が多く寄せられた。

実際、「ある題について書きなさい。」というだけでは、生徒はなかなか文を続けて書けないものである。'Do you like English? And why?' と質問しても長々と文を書くことはできない。今回、他クラスへの紹介文という形をとっているので、生徒たちが相手に対して分かりやすく書こうとしている様子が伺える。コミュニケーションとしてのライティングは、生徒のライティングへの意欲を高める活動であるといえる。

英語への吹き替え製作をしよう

昨年の研究授業で、映画「タイタニック」の名場面を和訳させて主人公ジャックとヒロインのローズとの会話を生徒に日本語で再現させた。男子校なので、男同士でラブストーリーの発表はできるのかどうか不安もあった。しかし、そんな心配をよそに、生徒たちは非常に喜々として活動に取り組んだ。映画の中の生きた英語を使って、コミュニケーションとしてライティング活動に応用したものが指導例である。

「千と千尋の神隠し」の冒頭部分を英語に吹き替えするという実践を行ったが、日本語自体が口語表現なので、生徒も大変苦労して英語に直していた。また、昨年実践した「タイタニック」とは異なり、日本語から英語への変換作業は、生徒にとって教師が予想した以上の壁であった。文法の正確さをそれほど意識する必要はないことや、また、英語にできない部分を黙ってやり過ごすのではなく、内容が伝わるように工夫することを指示した。「水切りをする」や「石のほころ」といった英語で表現するのが難しい表現は、どう言いかえをすれば伝えられるかをグループ内で相談させた。以下に生徒の英語への吹き替えの一部を紹介する。

(生徒の英訳例)

「前のほうがいいもん。」

- Group1 'I think the older is better.'
- Group2 'Before was better.'
- Group3 'Previous school is better.'
- Group4 'I like the old better.'
- Group5 'Old was better.'

「あそこじゃない？ ほら。」

- Group6 'Isn't it our house, is it?'
- Group7 'Isn't that? Look.'
- Group8 'Is there our house?'
- Group9 'Isn't it there?'
- Group10 'Look there. Isn't it our home?'

正しい英語からかけ離れていると感じるような表現もあるが、それでも生徒たちの努力のあとがみられた。とにかく英語で「伝えよう」とすることを第一に考えるように指示した。この吹き替え作成の時点では、生徒はおおむねよく活動に取り組んでいた。

普通教室にはビデオプロジェクターが整備されており、映画の場面を前にして生徒が発表をしたが、大いに盛り上がった。最後に DVD に英語字幕を表示状態にしてある画面をキャプチャーし、印刷したワークシートを配布したところ、「こういう風に英語でいうんだ。」といった声があちらこちらから聞こえ、自分のグループが発表した英語と、お互いに比べ合っていた。授業後のアンケート結果は、以下のとおりである。

項 目			
a. 吹き替え製作に積極的に参加したか。	17	17	4
b. 発表に積極的に参加したか。	14	17	7
c. 他グループの発表を真剣に聞いたか。	20	13	5
d. 吹き替え作業は楽しかったか。	23	13	2
e. 発表は楽しかったか。	18	13	7

以上のことから、楽しく英語で表現することで、英語で書くことに対する恐怖感・劣等感が減り、また、英語で表現することへの期待が膨らんだと感じた。

リ - ディングの活動と結びつけたライティング活動

今回、英作文において「相手に自分の考えを伝え」たくなるようなテーマを設定し、受験を控えた 3 年生だからこそできる活動として、**リ - ディングの活動と結びつけたライティング活動**を実践した。突然テーマが与えられて書く英作文と違い、受験対策用の 400 ~ 600 語程度の英文（啓隆社発行の問題集から精選）を読んで、それに関連する質問に答える形式で、自由に意見を書く教材の工夫をした。実践例 にあるように、毎回グループ内で〔(文を)読む (意見を)書く (自分の考えを)話す (仲間の発表を)聞く〕の一連の作業がすべて盛り込まれており、生徒は意欲的に活動した。

文法上の誤りについては、教師から指摘しなかった。グループ内での発表時に、内容がよく分からないときは、生徒同士で質問をし合うことにしたので、互いに指摘されたポイントを見て本人が誤りに気づき自ら修正することができた。

次の例は、第 1 回のトレーニングを参考に、リ - ディングの活動と結びつけたライティング活動での素材文と生徒の作品例である。

第 1 回英文

In one way or another most people talk about the supernatural. In its most common form this is simply a matter of superstition : what actions do we think are lucky or unlucky ? In England for instance it is lucky to see a black cat cross your path ; it is unlucky to walk under a ladder or break a mirror ; it is lucky to find a four-leaved clover ; it is unlucky to spill salt.

A more serious form of the supernatural is the poltergeist an invisible being that is supposed to throw objects and furniture around. Strangely enough most poltergeists have manifested themselves when a young child is living in the house ; some people say that this shows that the child is faking the phenomena, others that the child acts as a kind of channel for psychic energy.

Even scientists have paid some attention to the supernatural. Several have investigated different aspects of E.S.P. (Extra-Sensory Perception). Some have studied how people can transmit their thoughts by telepathy and can tell, for example, what card another person is looking at even if they are hundreds of miles away. Many experiments seem to show that there is indeed something at work ; however, critics have pointed out that the results could have been achieved by cheating, for instance in some experiments by children communicating with high-pitched whistles that adults cannot hear.

Coming within the same field of speculation is the flying saucer or U.F.O. In the nineteen-fifties particularly, many people claimed to have seen mysterious flying objects in the sky, sometimes large and cigar-shaped, sometimes small and round and shining with a bright light. They were seen, not just by untrained people on the ground, but by trained observers and pilots. One pilot is even supposed to have chased one high in the air ; what he found nobody knows because his plane exploded. At least one man claims to have spoken to the occupants of a saucer. They turned out to be from the planet Venus and to be rather concerned about human beings testing nuclear bombs.

英語 や の教科書にありがちな本文についての Q and A ではなく、以下のような質問を工夫した。

1. What kind of superstition do you know? Show a familiar one to you.

生徒の例

- I know that we shouldn't kick a stone by left leg. Otherwise a very bad thing will happen to us.
- Don't cut nail at night. Because it was called YOZUME in Japanese and it means that you are to die soon.
So I seldom cut my nail at night.
- When we see a white snake, we mustn't kill it. A white snake brings us luck.
- This is a story that I was told when I was a child. I was told it by my friend when we played together. One of my friends told a very impressive story. This is "AWASEKAGAMI." You may wonder what it is. It is a pair of mirrors facing each other. If you see your face hundredth(?), you will die. The hundredth your face will be your dead face.

2. Have you ever experienced supernatural thing? If your answer is "Yes.", please tell us the one. If your answer "No", please show us a supernatural thing which you know.

生徒の例

- When I was a child, I was sure that I saw a kind of UFO. It was blue and shining. And then I suddenly started moving very fast and I lost sight of it soon.
- One day my friend dreamed of his friend. He hasn't seen his friend for a long time. Somehow he dreamed of his friend at the next night again. When he woke up in the morning, his phone rang. It was the news that his friend had died the day before.
- Unfortunately I haven't experienced supernatural thing. There is a person who saw a ghost. But I have never seen it. I want to see it someday though I feel scared.

次回の英作文トレーニングの題材になる英文を選ぶ手間はかかったものの、この活動を毎回生徒が楽しみにするようになってきた頃には、教師も生徒も日常の活動のように感じられるようになった。

しかしながら、順を追って段階的に難易度を上げていくにつれ、発問の準備不足もあり、第6回では生徒全体の英文の量が少なくなった。英文の種類と発問の仕方、書く量はかなり左右された。

次に、第2回から第7回で用意した英文の題目と生徒に作文を促すような発問の例を挙げる。生徒のワークシートについては26ページの添付資料を参照のこと。

第2回「人間の持つ超感覚 (the sixth sense)」

Q1. What superhuman sense introduced in this story impressed you most? And why?

Q2. What sense do you want now? And why?

第3回「90年代のアメリカにおける上方志向」

Q1. Are you for or against "upwardly mobile"? And why?

Q2. A few days ago, Jumbo Ozaki, a super professional golf player, went out of business.

He once earned as much as hundreds of millions of yen a year and built a mansion with a very large garden and invited famous talent. But now only debt is left to him and his house is no longer his own one. If you got unbelievably much money, what would you do? How do you spend it?

第4回「黒柳徹子の見た戦争の惨劇」

Q1. What do you think of the war after reading the story of a girl who became a victim of the war.

Q2. What should we do to prevent children in Africa from dying young?

第5回「人間と言語」

Q1. What if we human should lose our languages?

Q2. If you can communicate with animals by means of language, with what animals and about what things do you want to talk?

第6回「散文と詩」

Q1. Do you like reading poems? And tell us the reason why you think so.

Q2. Try to write a poem with about 50 words.

第7回「環境破壊の中心にいる日本」

Q1. When you learned that Japan is the biggest consumer of ivory, what do you think about it?

Q2. *Newsweek* article says that Japan receives forty percent of the wood exported from the world's jungles. What should we do to prevent the earth from destruction? Show your resolution in terms of the consumption of timber in Japan.

第4回を例に挙げると、1名を除いて全員が80語以上で書くことができていることから、目標は達成できた。また、このトレーニングは「英語で書こうとする」意欲・態度を育てるのに適していた。

以下は、第1回～第7回の英作文トレーニング後の生徒の感想である。

第1回

- ・初めてこの作文に取りかかって大変でしたが、自由にかけるのでけっこう面白かったです。他のテーマでも書いてみたいと思いました。
- ・英作文は苦手だけどテーマが分かりやすかったので、結構書けたと思う。これみたいに分かりやすいテーマならまた書いてみたいと思う。
- ・自分の知らなかった迷信や奇妙な現象を友達から聞いて楽しかった。

第2回

- ・英作文への苦手意識は減りつつあると思う。
- ・第1回よりは英文もよく読めたので、書きたいことを早く書き終えることができた。
- ・英作文は苦手なでもっと練習が必要だと感じた。
- ・今日はあまりよく書けなかったが、次は文がつながるように書いて長い文章を書けるようになりたいと思いました。

第3回

- ・前より長く書けた気がする。
- ・ちゃんとした英文になっていませんが、それなりにおもしろかったです。
- ・英作文練習は自分の単語力、文章構成力を高めるのにより目標を持てるので、これからもしっかり続けていきたい。

第4回

- ・まだまだ思っているように英語で表現できないと再認識させられた。
- ・いつも以上に今回は書きたいことを英語で表現できたので、少し自信がついた。
- ・このトレーニングでより英語がおもしろく感じられた。
- ・自分の思ったことが正確に表現できたか不安である。
- ・言いたいことはたくさんあるのに、英語でうまく表すことができないので、少しもどかしさを感じた。
- ・文中の登場人物の気持ちを理解しても、そのことを表すことの難しさが分かった。

第5回

- ・だんだん慣れてきたけれども、何を書いてよいか分からないことが多い。
- ・文法とか正しくない分かっているけど、こういう活動はよい経験だ。
- ・5回やってみて、最初は結構でこずったけど、だんだんコツのようなものがつかめてきたと思う。
- ・自己主張ができるから自己表現のトレーニングにはいい。書いてみると、文の構造が勉強できる。

第6回

- ・長文を読むスピードも要求されるので、ちょっとつらかった。
- ・自分の考えを英作文で表すのは、いろいろな発想をさせられるし、いろいろな物事について考えさせられるので、人間としてちょっと成長した気持ちになる。
- ・よく考えてみるともう6回もやっていた。いままで経験のなかった自由英作文の授業も慣れたと思う。

・英語で詩なんか書いたことなかったので、今回勉強になった。

第7回

- ・私は英語が苦手教科で、その中でも英作文は大の苦手だったので、最初は英作文を書くことに対して、かなり抵抗がありましたが、これまでの英作文を通して、少しずつ英作文のおもしろさが分かったような気がします。
- ・今日は特につらい思いもしないで書けた。

7回目のトレーニングの後は、4月と同様のアンケートを行った。

授業アンケート (4月、11月)

自分自身に関すること		(得意)	(ふつう)	(苦手)
a. 英語は・・・	4月	9	17	26
	11月	11	18	11
b. 英文を読むことは・・・	4月	5	20	17
	11月	8	19	13
c. 英語で書くことは・・・	4月	1	6	35
	11月	4	23	13
d. 英語を話すことは・・・	4月	0	4	38
	11月	1	15	24
e. 英語を聞き取ることは・・・	4月	13	19	10
	11月	13	23	4

英作文トレーニング直後のアンケートということをしり引いても「英語で書くこと」について「苦手」と答えた生徒が大幅に減ったことは、これらの活動によって、生徒が英語で書くことに対して自信をつけてきた証であると考えられることができる。さらに、関連の有無は不明だが、「英語を話すこと」についても「苦手」と答えた生徒の数が減っている。書くことへの自信が話すことにも何らかの影響を与えているのかもしれない。

4 感想とこれからの課題

初めは、3年生しか授業担当がないために、受験のことを強く意識している生徒たちにこの活動が快く受け入れられるのだろうかと少々不安であったのだが、取り越し苦労であった。生徒たちは、私の予想をはるかに上回る意欲を見せて「書くこと」に取り組んだ。

今回の実践は、生徒の意識変化を期待しながら、その結果として語数が増えればよいという程度で行ったが、かえってそれが生徒にプレッシャーにならずに済んだのかも知れない。実践を通して、英語で書くことへの「関心・意欲・態度」が形成されつつある手応えを感じた。機会があれば、特定の生徒の追跡調査を試みたい。

<参考文献>

- ・ Canale and Swain (1980). Theoretical Bases of Communicative Approaches to Second Language Teaching and Testing. *Applied Linguistics*1:pp1-47
- ・ Louis A. Arena (1998). *Strategies and Skills for Effective ESL writing – or Writing to Learn*
- ・ ASTE 第95回例会(1998). 『試してみました--Written Communication』
- ・ 吉田研作 (1998). 『ASSOCIATION OF SOPHIAN TEACHERS OF ENGLISH 第39号』
- ・ 伊東治巳 (編) (1999). 『コミュニケーションのための4技能の指導』教育出版.

自由作文トレーニング No.1

次の英文を読んであとの問いに答えなさい。

In one way or another most people talk about the supernatural. In its most common form this is simply a matter of superstition : what actions do we think are lucky or unlucky ? In England for instance it is lucky to see a black cat cross your path ; it is unlucky to walk under a ladder or break a mirror ; it is lucky to find a four-leaved clover ; it is unlucky to spill salt.

A more serious form of the supernatural is the poltergeist an invisible being that is supposed to throw objects and furniture around. Strangely enough most poltergeists have manifested themselves when a young child is living in the house; some people say that this shows that the child is faking the phenomena, others that the child acts as a kind of channel for psychic energy.

Even scientists have paid some attention to the supernatural. Several have investigated different aspects of E.S.P. (Extra-Sensory Perception). Some have studied how people can transmit their thoughts by telepathy and can tell, for example, what card another person is looking at even if they are hundreds of miles away. Many experiments seem to show that there is indeed something at work ; however, critics have pointed out that the results could have been achieved by cheating, for instance in some experiments by children communicating with high-pitched whistles that adults cannot hear.

Coming within the same field of speculation is the flying saucer or U.F.O. In the nineteen-fifties particularly, many people claimed to have seen mysterious flying objects in the sky, sometimes large and cigar-shaped, sometimes small and round and shining with a bright light. They were seen, not just by untrained people on the ground, but by trained observers and pilots. One pilot is even supposed to have chased one high in the air ; what he found nobody knows because his plane exploded. At least one man claims to have spoken to the occupants of a saucer. They turned out to be from the planet Venus and to be rather concerned about human beings testing nuclear bombs.

(343 words)

1. What kind of superstition do you know? Show a familiar one to you.
2. Have you ever experienced supernatural thing? If your answer is "Yes.", please tell us the one. If your answer "No", please show us a supernatural thing which you know.

自由作文トレーニング No. 2

次の英文を読んであとの問いに答えなさい。

"The physical senses of Aborigines far exceed ours," says a Japanese professor who has done field research in Australia.

When Professor Shimbo once climbed a hill with some Aborigines, one pointed to a distant place and said he saw smoke. Even with binoculars, Shimbo could see nothing.

"I checked later and found out that there was a fire about 100 km away from where we were, about the distance from Tokyo to Atami," Shimbo said. Even using the most powerful binoculars, people can see only up to 30 km, said the professor.

When Shimbo visited an Aboriginal school in the desert, he saw young students jumping around, as if agitated. When he asked a non-Aboriginal teacher what the children were doing, the teacher said, "In two or three days, a storm will come."

After two days of sunny weather, strong winds began to blow and a thunderstorm struck. The teacher later told Shimbo that in his eight years of teaching in the area, he had learned that when young kids become agitated, it is always a harbinger of violent weather. "It has never failed to come true," he added.

Shimbo says one Australian told him whites are often attacked by sharks in coastal waters but Aborigines never are because, "they can sense danger and swim away before sharks can approach them."

A government official told Shimbo how an old Aboriginal woman burst into violent tears while conversing with white people. When asked why, the old woman said her son had just died. "Your son ? Where is he ?" "He's in a settlement across the desert."

Because the desert was 400 km wide, and no means of communication connected the two settlements, the white people dismissed the old woman's story as total nonsense. A few days later, however, a messenger arrived from the settlement on the other side of the desert and informed them of the son's death. The time of his death was exactly when the old woman burst into tears. An anthropologist who has devoted his life to the study of Aborigines said these abilities are something that the Aborigines have acquired over a millennia of living in dangerous conditions. A special state of mind gives them superhuman senses that allow survival.

(372 words)

1. What superhuman sense introduced in this story impressed you most? And why?
2. What sense do you want now? And why?

自由作文トレーニング No. 3

次の英文を読んであとの問いに答えなさい。

Not too long ago, during the 1980's, everyone in America wanted to be "upwardly mobile." We wanted to be increasingly successful. We wanted to have a better income, even if it meant working many hours of overtime or even two jobs. And we wanted all the material things that showed everyone else how successful we were. We wanted a bigger house, a fancier car, a Gold Visa or Mastercharge, a boat, a vacation condo in Hawaii.

But for many, this kind of success has proved to be a disaster. The dream became a nightmare. It left us financially indebted, spiritually empty, and emotionally exhausted. In the meantime, our blood pressure went up. Our children were neglected. Our marriage failed. And for what ? Is it worth all the worry and headache ? More and more people are answering a loud "No !" to this question.

As a result there is a new formula for success for the generation of the 90's. It is called "downward mobility."

Or, to put it in more simple terms, “living simply.” Living simply does not necessarily mean that you have to move out into the wilderness and grow your own vegetables, sew your own clothes, bake your own bread. You don’t have to go to such extremes. But it does mean “downscaling” your lifestyle to bring it in line with the reality of your income. It means, as we used to say, “living within your means.”

How do you do this? For one thing, you get rid of that oversized mansion you own with its heavy mortgage payments and buy a more affordable home. For another you trade in your shiny new BMW and Mercedes and get yourself a nice used Ford or Corolla. And it means taking all your credit cards and cutting them into tiny pieces. From now on, you pay cash for everything. And if you don’t have the cash, you don’t buy.

Of course, it isn’t as easy as it sounds. For most of us, “living in the fast lane” a popular expression of the 80’s is a hard habit to break. We can’t help measuring success in material terms. But the job market isn’t as sure as it once was, say the experts. No one knows what will happen next. The only way to be safe is to slow down, get out of the fast lane, and relax and enjoy the ride. (399 words)

[注] be mobile : 動く, 移る Gold Visa or Mastercharge : (有名なクレジットカード名) a vacation condo : リゾートマンション mortgage : 住宅ローン

1. Are you for or against “upwardly mobile”? And why?
2. A few days ago, Jumbo Ozaki, a super professional golf player, went out of business. He once earned as much as hundreds of millions of yen a year and built a mansion with a very large garden and invited famous talent. But now only debt is left to him and his house is no longer his own one. If you got unbelievably much money, what would you do? How do you spend it?

自由作文トレーニング No. 4

次の英文を読んであとの問いに答えなさい。

I shall never forget the words of the headman of a nameless village in Tanzania. “Miss Kuroyanagi,” he said, “there is one thing I hope you will remember when you go back to Japan : Men and women usually die groaning and complaining of pain, but children just die silently, beneath the banana leaves, trusting us adults.”

In 1984, I was appointed goodwill ambassador for UNICEF. In the 13 years since then, I have visited many countries and met lots of children. In the early 1980s, 14 million children under the age of five died each year. They were weakened by starvation and malnutrition as a result of wars and poverty, and because of a lack of immunization, exposed to diseases that need not have killed them.

Had I not been given this work, I might never have known about these children. Nor would I have known what a strong will to live children have, whatever the circumstances, because of their faith in grown-ups. My heart aches when I think of the 180 million children who have died in horrible conditions in the 13 years since I was appointed UNICEF goodwill ambassador.

In India, I met a boy who was dying of tetanus. I spoke to him softly, in Japanese, “The doctor is taking care of you. You’ll be all right!” He looked at me with his beautiful large eyes, and he tried to say something. Tetanus is a terrible disease, in which all muscles stiffen and one cannot speak. I asked the nurse what he had said. She told me he was trying to say, “I pray for your happiness.” I was too moved for words. That dying boy made no complaint of any sort and just said that. Had he been immunized, he need not have died. I shall never forget either the Tanzanian village headman’s words or those of that Indian boy. They will remain forever in my heart.

I can never forgive the man who hid a bomb in a child’s stuffed toy. When the fighting broke out in Bosnia, roofs were blown off houses and people ran this way and that trying to escape, but they managed to protect their children. As soon as things seemed quiet, they returned home. One little girl went straight to her room to see if her favorite stuffed toy was still there.

“Sorry I couldn’t take you with me. I’m so glad you waited !”

That is what she probably said as she ran to her favorite toy and picked it up to embrace it. Just then, the bomb went off, killing the child. While the house had been left empty, one of the enemy had gone in and hidden a bomb inside the stuffed toy so it would go off when the child picked it up.

So war even takes advantage of the psychology of children ! I wonder what that child thought as she died, embracing her stuffed toy. Did she think, “How could you do this to me ? You were my friend !” As for me, when I heard about it, I was filled with the deepest possible hatred for war. (521 words)

[注] malnutrition : 栄養失調 immunization : 免疫予防注射 tetanus : 破傷風

1. What do you think of the war after reading the story of a girl who became a victim of the war.
2. What should we do to prevent children in Africa from dying young?

自由作文トレーニング No. 5

次の英文を読んであとの問いに答えなさい。

Among the activities that distinguish human beings from other animals are those associated with language, thinking, and problem solving. Our capacity to use language as both a means of communication and a storehouse of information is related to our ability to think, on the one hand, and to solve problems that lead to changes in our environment and behavior, on the other. Other animals cannot, in general, pass information from generation to generation. Human beings, because they have the use of language, can store information in books and in other forms. As a result, the relationship between language and thought is continually evolving.

Other animals communicate with one another in various ways : dogs bark, lions roar, and some birds display colored plumage during the mating season. But the range of communication that these animals have at their disposal is relatively limited. What gives human language its enormous range and what distinguishes it from other forms of communication is the fact that it is symbolic.

A symbol is anything that stands for something else. Language is symbolic in that words are representations of

objects, ideas, and sensations. As a result of our ability to communicate symbolically, the range of expression that is available to us is virtually unlimited. We can refer to a chair without pointing to any chair in particular ; we can even refer to a unicorn and make ourselves understood even though nobody has ever seen one except in paintings. (241 words)

[注] unicorn : 一角獣

1. What if we human should lose our languages?
2. If you can communicate with animals by means of language, with what animals and about what things do you want to talk?

自由作文トレーニング No. 6

次の英文を読んであとの問いに答えなさい。

Let us look at the special problems in reading and understanding that poetry may set. People sometimes have fixed preconceptions about and an antipathy towards poetry. They regard it as 'effeminate' or 'arty' or 'difficult'. These comments may be true of some poems, but they are not true of poetry as a whole. Sometimes, poems require a greater effort on the part of the reader but equally they can give the reader a satisfaction commensurate with this effort. The more you put into reading a poem, the more you are likely to get out of it.

It is difficult to generalize about poetry, but the basic difference between prose and poetry is the latter's economy. A novel may contain 80,000 words, a short story 5,000 : the writers of these have room to expand and fill in detail. The poet is usually working on a much smaller scale : he is trying to catch a moment or create an effect or pass on a thought, and he may use only 200 words in doing so. It follows then that if he is to make an impression on the reader at all, these words must be chosen with great care so that they have the maximum impact. A writer of a novel or a short story can afford to be expansive, he can afford to some extent to waste words or write about irrelevancies : a poet can't.

The pattern imposed on a poem by its verse-form also acts as a discipline on the poet. A novelist or a short story writer doesn't necessarily have to worry too much about the rhythm of his words or the lengths of his paragraphs : a poet has to concern himself much more with how the words fit into a particular pattern and the need for the words to carry on a particular rhythm.

It follows then that the words in poetry are likely to be more packed with meaning than in prose. The poet has to take into consideration the sound of the words he uses, their rhythm, the associations they call forth in the reader's mind, much more than a prose writer, because the poet has to make a much more powerful effect in a smaller space. (375 words)

[注] effeminate : lacking in manly qualities
arty : making a pretense or show of being artistic
commensurate (with) : equal in measure or size (to)

1. Do you like reading poems? And tell us the reason why you think so.
2. Try to write a poem with about 50 words.

自由作文トレーニング No. 7

次の英文を読んであとの問いに答えなさい。

Many Westerners writing about the Japanese have noted their love of nature. Nature has long been considered essential to an understanding of their art, literature, and religion. This view is now being revised and a new, negative image is spreading fast. As concern grows about the environment, Japan has come to be criticized as one of the world's worst "environmental outlaws": that is, as a nation which disregards the necessity of preserving the natural environment. As one member of the conservation group Greenpeace says, "My impression is that the Japanese will do whatever it takes to secure what they want : whale meat, ivory, or timber."

Whaling has long been a topic of international dispute. The other two are comparatively recent topics, but they have caused equally heated disputes that put pressure on the Japanese, forcing them to reflect on their behavior.

According to a recent article in *Newsweek*, the elephant population in Africa has decreased in the past ten years from 1.3 million to about half that figure. Most of the lost elephants were killed for their ivory, which is exported almost solely to Asia. Even among Asian countries, Japan was the biggest consumer. Embarrassed by critical publicity about its ivory consumption, Japan reduced its import total of 285 tons in 1985 to almost a third that amount in just three years. As a result, Hong Kong replaced Japan in 1988 as the world's largest buyer of African ivory. But that was only on the surface. A separate article points out that if indirect purchases from dealers in other countries are included, Japan is still the biggest consumer of ivory in the world.

As for timber, the same *Newsweek* article says that Japan receives forty percent of the wood exported from the world's jungles. Cutting down trees helps speed a phenomenon called "global warming," which increases temperatures and causes higher levels of water in the earth's oceans. Another worrying effect is that lakes and rivers near destroyed forests cannot maintain the same level of water. This has actually happened in the case of the River Lijiang, a river on which tourists take boat rides to get the best view of Guilin, one of the most scenic spots in Southern China. The falling water level in this river is said to be a result of great numbers of trees having been cut illegally. The river may run dry within the next few years if no action is taken. (407 words)

1. When you learned that Japan is the biggest consumer of ivory, what do you think about it?
2. *Newsweek* article says that Japan receives forty percent of the wood exported from the world's jungles. What should we do to prevent the earth from destruction? Show your resolution in terms of the consumption of timber in Japan.